

■児童・生徒の学力の状況

○RSTの結果は年度を超えて基礎的読解力の項目の善し悪しの傾向に差がある。学校全体として4年連続して「イメージ同定」や「具体例同定」では良好な結果を示していて、「係り受け解析」や「同義文判定」、「照応解決」の項目で課題が見られる。

○全国学力・学習状況調査の結果では国語、数学、理科とも平均正答率は全国値より上回っている。国語では「書くこと」、数学では「関数」で全国平均より若干下回っている。理科は正答率が全国平均に比べ、大きく下回っているものはないが、問題によって正答率にばらつきがみられる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

○考えを深めさせ、他の人と意見を交換するような質の高い協働的な学習の場をさらに増やしていく。

○主体的に学習に取り組み、自分の考えをしっかりとてようように、習得・活用・探究の流れを徹底する。

○生徒の思考や理解につながるような体験的な学習や問題解決学習をさらに実践する。

○ICT機器の活用は教員によってまだ活用の頻度や技量の差がある。

○発言や文章化など生徒が得られた知識をもとにOUTPUTする場面を意図的に設定する。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○基礎的・基本的な知識・技能を習得し、「板橋区授業スタンダード」を基にした「高3中授業スタンダード」を軸に思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。また個に応じた指導を行い、自ら進んで学習に取り組む生徒を育てる教育を推進する。

○「高3中授業スタンダード」（目標→自分の考えをもつ→考えを深める→まとめ・分かったこと・できたこと）を継続して実践し、生徒の学力向上と教員一人一人の指導力の向上を図る。また、板橋スタンダードSを推進する。

○各教科で、一人一台のタブレットPCや電子黒板、実物投影機等のICT機器を有効に活用して「分かる、できる、楽しい」授業を推進するとともに、基礎・基本の定着を図り、主体的に学習に取り組む生徒を育てる。

○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、生きて働く知識や技能の習得等、これからの時代に求められる資質・能力を育成する。

○指導と評価と支援の一体化（授業内での評価）を行い、学習内容の充実及び、生徒の学習意欲の向上を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 授業スタンダードの実践	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○各教室に設置してある「目標」等の表示を活用し、どのように考え、わかったことなどを明確にしていく。 ○各教科において、可能な場面でスタンダードSの実践を試みる。	○校内研修等の指導案に育成する基礎的読解力を明確に記載するとともに、個々の教科の特性そった基礎的読解力を重点的に育成する。	○複数の教科領域の内容が絡むiカリキュラム等の取り組みにおいて各教科の学習内容と連携をはかる。 ○発表の場面を設定し、自己の経験や多様な知識を結び付けOUTPUTさせる。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリアで「読みとく力」「郷土愛」「環境」などについて研修会などを通し、学びのエリアの各学校の取り組み状況の情報交換を行う。 ○「郷土愛」に関し、調べ学習をもとにした探究学習や地域を発展を念頭においた施策などを個々に考え発表する。 ○「キャリア」や「環境」、「郷土愛」に関して3年間の見通しをもった計画のもと実施する。	○iカリキュラムなどは3年間、その他学習テーマも年間を通して、どのように深めていくかという視点をもって計画をたて、生徒の実態に応じ、適宜検証、改訂を行う。 ○時間割変更の管理を行い、極力週単位でクラス授業数が揃うようにすることで、授業を見通しやゆとりを生み出し、授業準備や計画の質をあげる。 ○全員が校内での研究授業を実践し、他の授業も観察することにより、自己の授業を検証する機会を設ける。	○一人一台端末を日常的に活用し、生徒の学びを豊かにする手立ての一つとして、文房具のように利用する。 ○授業プリントなど教材をClassroomにあげるにより、休んだ生徒や復習を必要とする生徒の学習に対応をする。 ○一人一台端末の有効な活用により、協働的な学習を進める。